

土地改良事業を通じた

個性と活力のある豊かな農村の実現に向けて

農村振興プロセス事例集

Ver. 3

平成29年3月

農林水産省

■ 農村振興プロセス事例集とは

我が国の農村は、地理的・地形的条件、気象条件等に応じた多様性を有しており、地域の発展に向けて目指すべき姿を特定することはできません。地域の風土に合った生産活動等を通じて多様な個性を発揮させ、活力と魅力ある農村を実現することが必要です。

そこで新たな土地改良長期計画(平成28年8月閣議決定)では、農村の多様性を考慮し、「個性と活力のある豊かな農村」の実現に向けた地域の主体的な取組を後押しすることが重要と考えました。

本事例集は、土地改良事業の実施に際し、関係者が具体的なイメージを共有しながらスピード感を持って取り組むことができるよう、先進的な地域の「発展プロセス」を分析・レビューし、活性化する農村協働力にも着目しつつ、地域自らが考える手掛かりを提供しようとするものです。

■ 発展プロセスとは

本事例集では、地域の特性を活かした特色ある発展を実現した地域を取り上げ、どのような取組を行ってきたのかを経時的な一連のプロセスとして整理することとしました。

〈プロセスの模式図〉



皆さんの地域と“条件が似ている地域”や“同じような悩みを抱えている地域”を見つけ
これからの取組の参考としてみてはいかがでしょうか

■ 事例集の活用ガイド（目次）

タイトル	主な作物	傾斜区分	土地改良事業	政策課題Ⅰ				政策課題Ⅱ		政策課題Ⅲ		その他		所在地	頁
				高収益作物	6次産業化	集積・集約化	法人化	地域資源保全	美しい農村	再生エネルギー	水利施設	防災・減災力	輸出		
《平地農業地域》															
1	高収益な枝豆の安定生産・加工・販売を通じた日本一の農業所得の実現	野菜	平坦	傾斜区分 区画整理	○	○				○		○		北海道 札幌市	1
2	日本一のトマト産地へ 湛水被害を克服した低平干拓地の発展	野菜	平坦	傾斜区分 排水路 農路 区画整理	○	○				○	○			熊本県 八代市等	3
3	未曾有の被害を乗り越えよう キャベツ農家の復興まちづくり	野菜	平坦	ダム 傾斜区分	○	○				○				宮崎県 高鍋町	5
4	基盤整備が後押しした いちごの高級ブランド産地への発展	野菜	緩	排水路 区画整理	○	○				○	○	○		福岡県 大牟田市等	7
5	雲山菅賢岳の噴火被害から根菜類の一大産地の形成	野菜	緩	傾斜区分	○	○				○				長崎県 島原市	9
6	「白ごま」の生産拡大と6次産業化の推進による 離島振興	野菜	緩	地下ダム 傾斜区分	○	○				○				鹿児島県 種子島町	11
7	巨大区画水田におけるIT農業の導入・促進	水稲 野菜	平坦	区画整理 排水路	○	○						○	○	北海道 士別市	13
8	集落全体で取り組む環境保全型農業を通じた コメ輸出の展開	水稲 野菜	平坦	傾斜区分 排水路			○	○			○		○	秋田県 横手市	15
9	効率的な営農を目指して 地域農業へ波及した法人の省力的な水稲経営	水稲 野菜	平坦	排水路 傾斜区分	○	○				○				千葉県 旭市	17
10	低平地水田地域における排水施設の整備を通じた 複合経営への挑戦	水稲 野菜	平坦	排水施設 区画整理	○	○				○				新潟県 新潟市	19
11	水稲依存からの脱却による たまねぎ一徳産地の形成	水稲 野菜	平坦	排水施設	○	○				○	○			富山県 砺波市等	21
12	国内最大級のパイプラインが支える 多様で特色ある農業経営	水稲 野菜	平坦	排水路 区画整理	○	○				○				福井県 坂井市等	23
13	生産基盤の整備を通じた地域ぐるみの 加工・業務用野菜の産地化推進	水稲 野菜	平坦	区画整理 排水路	○	○				○				滋賀県 長江町	25

どのような取組を行ったのか、土地改良長期計画における3つの政策課題を踏まえて分類し、取組を行った項目には「○」を記しています。

◆ 政策課題Ⅰ「豊かで競争力ある農業」
 高収益作物：米中心の営農体系から野菜等の高収益作物への転換等
 6次産業化：農作物の生産に加え、加工・販売による付加価値の創出
 集積・集約化：担い手への農地の集積・集約化
 法人化：農事組合法人、株式会社等への法人化

◆ 政策課題Ⅱ「美しく活力ある農村」
 地域資源保全：地域共同活動による地域資源の保全
 美しい農村：環境配慮施設等の整備を通じた地域づくり
 再生エネルギー等：小水力発電等の導入

◆ 政策課題Ⅲ「強くてしなやかな農業・農村」
 水利施設：農業水利施設の改修や更新等
 防災・減災力：ハザードマップ等の地域における防災・減災活動

◆ その他
 輸出：農作物の輸出に向けた取組
 次世代：後継者等の次世代を担う若手が参画した取組
 外部人材：企業の農業参入や大学等との連携、移住者の参画等
 女性：女性が牽引した取組

- ◆ 主な作物：**
営農の区分として、「水稲」、「野菜」、「果樹」、「酪農」に分類しています。
- ◆ 傾斜区分：**
地区の傾斜を、
「平坦（田：1/100未満、畑：8°未満）
「緩傾斜（田：1/100以上 1/20未満、畑：8°以上 15°未満）」、
「急傾斜（田：1/20以上、畑：15°以上）」
に分類しています。
- ◆ 土地改良事業：**
区画整理や用排水路、畑地かんがい施設など、土地改良事業でどのような整備を行ったのか記載しています。

■ 事例集の活用ガイド（取組事例）

【1枚目】

◎ 事例のタイトル

目次に掲載したタイトルを記載しています。

◎ 事例の概要

取組の概要を記載しています。

事例のタイトル <small>【都道府県・市町村名】</small>		
事例の概要		
取組前	取組内容	取組後
<small>【営農規模】</small> <small>【経営体数】</small> <small>【作目】</small>	活用した施策	<small>【営農規模】</small> <small>【経営体数】</small> <small>【作目】</small> <small>【雇用】</small>

◎ 取組前

取組前の農業や地域の状況を記載しています。

◎ 取組内容

どのような取組を行ったのか、活用した施策と併せて記載しています。

◎ 取組後

取組を通じて、地域の農業や農村がどのように変化したのか、記載しています。

◎ インデックス

目次に掲載した項目を記載しています。

キーワード欄は、当該取組を行っていれば「黒」、行っていない場合は「灰色」で表示しています。

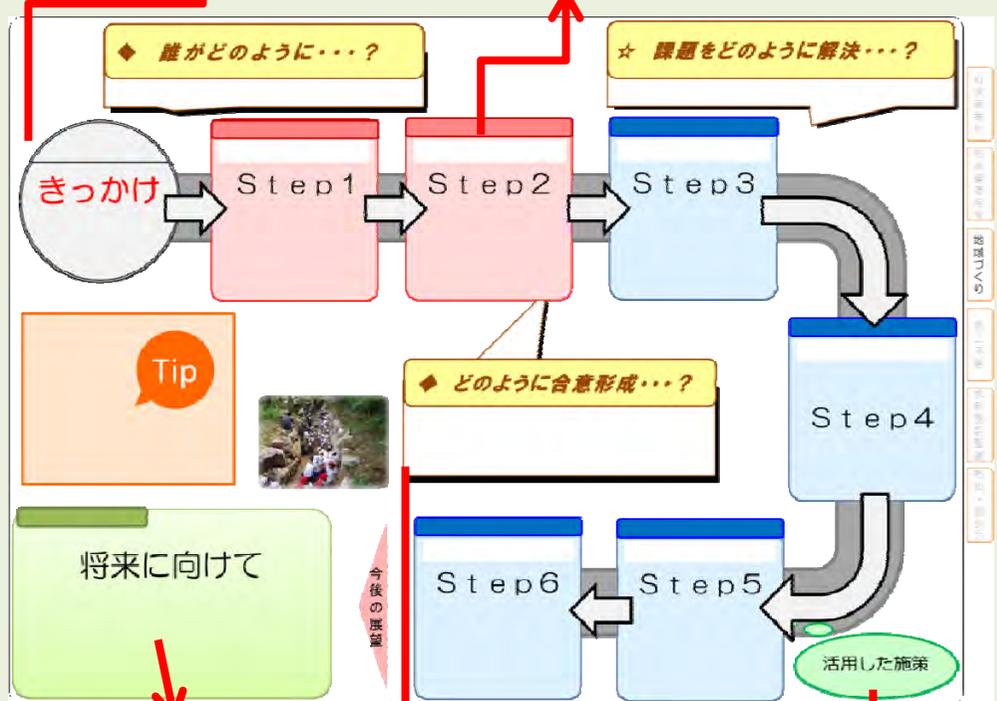
【2枚目】

◎ きっかけ

取組を開始するに至った背景や理由を記載しています。

◎ 取組のステップ

実施した取組を時系列順に記載しています。土地改良長期計画に関連する施策を実施している場合には、赤枠で表記しています。



◎ 将来に向けて

今後の更なる発展に向けて、検討している取組を記載しています。

◎ Tip

コツや豆知識などの情報を記載しています。

◎ 取組のポイント

取組を実施するに当たってキーとなる事項や参考となる情報を記載しています。

特に「課題の解決方法」については、「☆」で表示しています。

◎ 活用した施策

土地改良事業以外で活用した施策を記載しています。

■ 目次 ①

タイトル	主な作物	傾斜区分	土地改良事業	政策課題Ⅰ				政策課題Ⅱ			政策課題Ⅲ		その他				所在地	頁
				高収益作物	6次産業化	集積集約化	法人化	地域資源保全	美しい農村	再工等	水利施設	防災・減災力	輸出	次世代	外部人材	女性		
《平地農業地域》																		
1	高収益な枝豆の安定生産・加工・販売を通じた日本一の農業所得の実現	野菜	平坦 	畑かん排水改良区画整理	○ 枝豆	○					○		○			○	北海道 中札内村	1
2	日本一のトマト産地へ湛水被害を克服した低平干拓地の発展	野菜	平坦 	頭首工用排水施設区画整理	○ トマト	○					○	○		○			熊本県 八代市等	3
3	未曾有の被害を乗り越えようキャベツ農家の復興まちづくり	野菜	平坦 	ダム畑かん	○ キャベツ				○	○		○				○	宮崎県 高鍋町	5
4	基盤整備が後押ししたいちごの高級ブランド産地への発展	野菜	緩 	用排水路区画整理	○ いちご	○						○		○			福岡県 八女市等	7
5	雲仙普賢岳の噴火被害から根菜類の一大産地の形成	野菜	緩 	畑かん区画整理	○ にんじん		○		○			○					長崎県 島原市	9
6	「白ごま」の生産拡大と6次産業化の推進による離島振興	野菜	緩 	地下ダム畑かん区画整理	○ ごま	○				○		○				○	鹿児島県 喜界町	11
7	巨大区画水田におけるIT農業の導入・促進	水稲 野菜	平坦 	区画整理用排水路	○ トマト		○	○						○	○ 大学		北海道 士別市	13
8	集落全体で取り組む環境保全型農業を通じたコメ輸出の展開	水稲 野菜	平坦 	頭首工用水路			○	○	○			○		○		○ 県外企業	秋田県 横手市	15
9	効率的な営農を目指して地域農業へ波及した法人の省力的な水稲経営	水稲 野菜	平坦 	用排水施設区画整理	○ ブロックリー		○	○				○					千葉県 旭市	17
10	低平地水田地域における排水施設の整備を通じた複合経営への挑戦	水稲 野菜	平坦 	排水施設区画整理	○ ねぎ等							○					新潟県 新潟市	19
11	水稲依存からの脱却によるたまねぎ一億円産地の形成	水稲 野菜	平坦 	排水施設	○ たまねぎ	○						○	○				富山県 砺波市等	21
12	国内最大級のパイプラインが支える多様で特色ある農業経営	水稲 野菜	平坦 	用水路区画整理	○ にんじん トマト等			○		○		○					福井県 坂井市等	23
13	生産基盤の整備を通じた地域ぐるみの加工・業務用野菜の産地化推進	水稲 野菜	平坦 	区画整理用水施設	○ キャベツ	○		○				○				○	滋賀県 東近江市	25

■ 目次 ②

タイトル	主な作物	傾斜区分	土地改良事業	政策課題Ⅰ				政策課題Ⅱ			政策課題Ⅲ		その他				所在地	頁
				高収益作物	6次産業化	集積集約化	法人化	地域資源保全	美しい農村	再エネ等	水利施設	防災・減災力	輸出	次世代	外部人材	女性		
《平地農業地域》																		
14	クリーク網の整備と安定的な用水供給が支える水田フル活用の推進	水稲 野菜	平坦 	用排水施設	○ たまねぎ いちご等	○					○	○				○	佐賀県 佐賀市等	27
15	一大産地の形成から輸出拡大へうまさ奏でる“大栄西瓜”	水稲 野菜	緩 	ダム 用水路 区画整理	○ すいか						○		○				鳥取県 北栄町	29
16	“南海トラフ巨大地震を迎え撃つ”震災に強いとくしまの実現に向けて	水稲 野菜	—	用水路 海岸堤防								○					徳島県 全域	31
17	農地の集約化と多品種栽培を通じた生産コストの大幅削減	水稲	平坦 	区画整理 用排水路		○	○							○		○	茨城県 龍ヶ崎市	33
18	環境と調和した酪農基盤整備とクリーンな生乳生産によるブランド確立	酪農	平坦 	用排水路 肥培かんがい施設				○	○		○	○				○ 建設業等	北海道 浜中町	35
《中間農業地域》																		
19	中山間地域ならではの地域特性を活かした「多業型経済」の展開	野菜 果樹	緩 	区画整理 用排水路 農道	○ ぶどう等	○	○							○	○ 参入企業		埼玉県 秩父市	37
20	企業の農業参入と荒廃農地の再生を組み合わせたフードバレーの実現	野菜 果樹	緩 	畑かん 区画整理	○ ぶどう等	○	○			○		○			○ 参入企業		山梨県 北杜市	39
21	大規模農業団地化による産地形成を通じた県域リレー出荷の挑戦	野菜	緩 	区画整理 用水路	○ キャベツ		○								○ 参入企業		広島県 安芸高田市	41
22	基盤整備を契機とした露地野菜の生産拡大による所得の確保	野菜	緩 	畑かん 区画整理	○ はくさい 等			○	○					○			鹿児島県 曾於市	43
23	「強い農業」の実現へ 急傾斜地の平坦化を通じた高品質柑橘類の生産拡大	果樹	急 	区画整理 畑かん	○ みかん	○					○	○		○			静岡県 静岡市	45
24	4つの太陽を活かした「真穴みかん」ブランドの確立	果樹	急 	ダム 畑かん 農道	○ みかん							○					愛媛県 八幡浜市	47
25	担い手法人が牽引する東日本大震災からの復旧・復興に向けた地域づくり	水稲 野菜	平坦 	区画整理 排水改良	○ キャベツ 白菜等	○	○	○	○								宮城県 東松島市	49
26	農用地「管理」と農産物「生産」の分業化による集落ぐるみの複合経営の展開	水稲 野菜	緩 	区画整理 排水改良	○ ねぎ等	○	○	○	○							○	長野県 飯島町	51

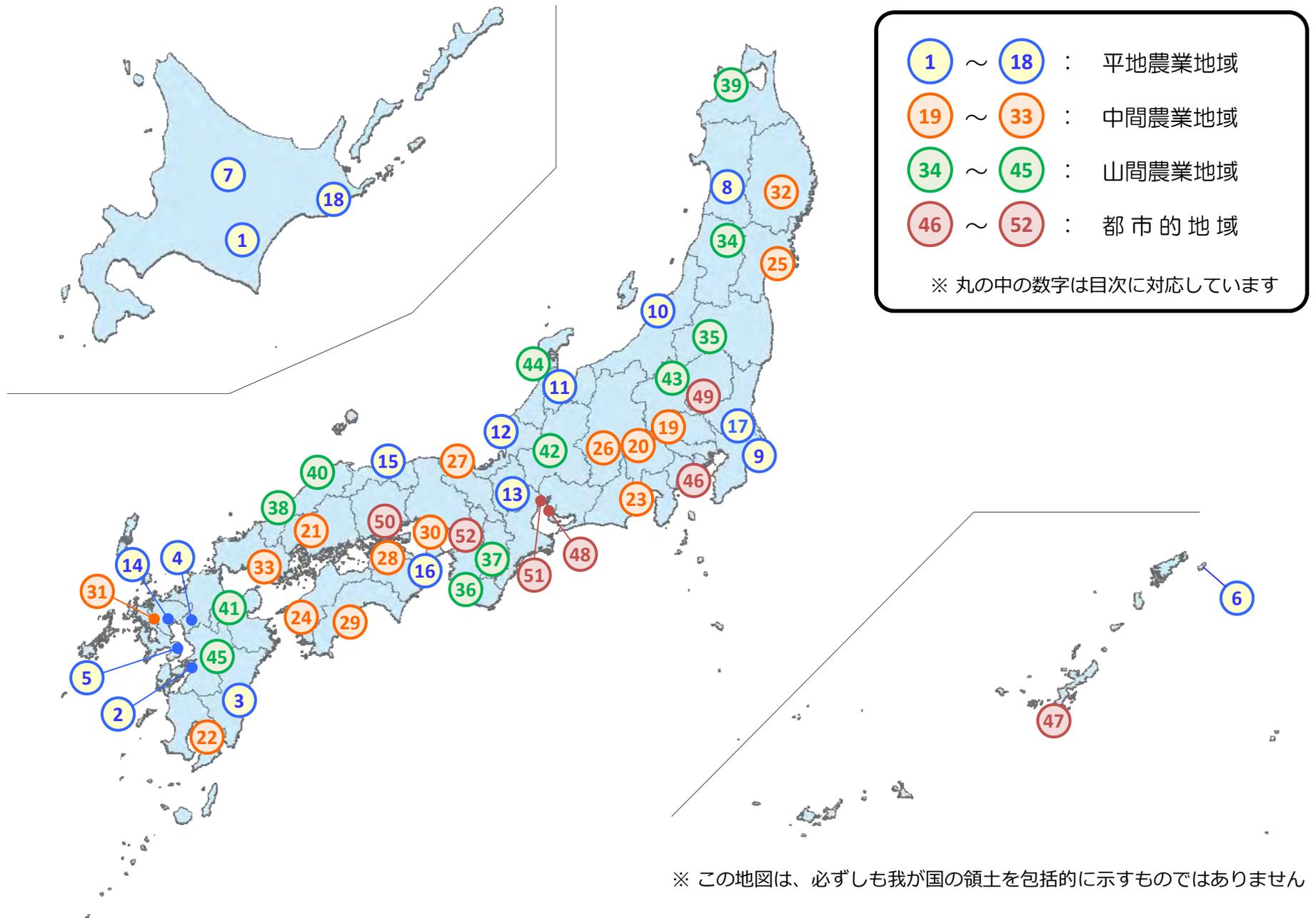
■ 目次 ③

タイトル	主な作物	傾斜区分	土地改良事業	政策課題Ⅰ				政策課題Ⅱ			政策課題Ⅲ		その他				所在地	頁
				高収益作物	6次産業化	集積集約化	法人化	地域資源保全	美しい農村	再エネ等	水利施設	防災・減災力	輸出	次世代	外部人材	女性		
《中間農業地域》																		
27	「集落営農」を越えた「地域営農」による 自立的な農業経営の実現	水稲 野菜	緩 	区画整理 用排水路	○ だいこん ねぎ等	○	○	○						○	○	京都府 京丹後市	53	
28	県産小麦「さぬきの夢」で讃岐うどんを 小麦の生産拡大に向けた挑戦	水稲 野菜	緩 	区画整理 用水路		○	○	○			○					香川県 綾川町	55	
29	低平地における2つの基盤整備事業が支えた 施設園芸の更なる発展	水稲 野菜	緩 	用排水 施設	○ みょうが 等						○					高知県 須崎市	57	
30	台風被害を契機とした集落営農による 美しい郷（ふるさと）の継承	水稲 野菜	急 	区画整理 用排水路	○ たまねぎ 等	○	○	○	○	○	○		○	○	兵庫県 淡路市	59		
31	新たな地域づくりの展開へ 多様な主体による棚田振興の実践	水稲 野菜	急 	棚田整備	○ たまねぎ	○			○	○						佐賀県 有田町	61	
32	農家の女性の夢が咲きました、 ほ場整備でトイレから農家レストランへ	水稲	緩 	区画整理 用排水路		○				○				○ 福祉団体	○	岩手県 遠野市	63	
33	“ツルを守り、地域を守る” ツルの里再生に向けた地域農業の展開	水稲	緩 	区画整理				○	○	○						山口県 周南市	65	
《山間農業地域》																		
34	水稲依存からの脱却による町を挙げた アスパラガスの産地形成	野菜	緩 	排水改良	○ アスパラ ガス											山形県 最上町	67	
35	雪国生まれのトマトがもたらした 持続可能な地域農業の実現	野菜	緩 	区画整理 用排水路	○ トマト	○							○			福島県 南会津町	69	
36	畑地かんがいが後押しした 世界に誇るうめの一大産地形成	果樹	緩 	ダム 頭首工 用水路	○ うめ						○					和歌山県 田辺市等	71	
37	ハウス柿のブランド化を通じた 「日本一の柿のまち」づくり	果樹	急 	ダム 農地造成 用水路	○ 柿		○				○		○			奈良県 五條市	73	
38	遊休農地を活用した大規模農業団地の整備による 先進農業の拠点づくり	野菜 果樹	緩 	区画整理	○ ぶどう いちご等	○	○							○ 参入企業		島根県 浜田市	75	
39	基盤整備、法人設立、農地集積による 「一集落一農場」の実現	水稲 野菜	緩 	区画整理 用排水路	○ にんにく 等		○	○	○						○	青森県 外ヶ浜町	77	

目次 ④

タイトル	主な作物	傾斜区分	土地改良事業	政策課題Ⅰ				政策課題Ⅱ			政策課題Ⅲ		その他				所在地	頁
				高収益作物	6次産業化	集積集約化	法人化	地域資源保全	美しい農村	再エネ等	水利施設	防災・減災力	輸出	次世代	外部人材	女性		
《山間農業地域》																		
40	中山間地域における経営の多角化を通じた「地域貢献型」集落営農の実践	水稻 野菜	緩 	区画整理 用排水路	○ トマト 花き	○	○	○	○	○					○	島根県 出雲市	79	
41	多面的機能支払との連携による自立的な地域農業経営の実現	水稻 野菜	緩 	区画整理	○ たまねぎ 等	○	○	○	○	○			○		○	大分県 日田市	81	
42	農業用水を活用したエネルギーの地産地消と元気な地域づくり	水稻 野菜	急 	小水力 発電施設	○ とうもろ こし	○				○	○		○	○ 移住者	○	岐阜県 郡上市	83	
43	農家民泊等の取組を通じた交流人口の増加	水稻 果樹	緩 	区画整理										○ 観光業者		群馬県 みなかみ町	85	
44	地震被害からの復旧・復興を通じた地域の防災・減災力の強化	水稻	緩 	ハザード マップ						○		○			○	石川県 志賀町	87	
45	熊本地震からの復旧・復興へ歴史的施設を守る「山の都」の挑戦	水稻	緩 	用水施設					○	○		○				熊本県 山都町	89	
《都市的地域》																		
46	海と山の恵みを受けた新鮮野菜のブランド化と大都市近郊産地の形成	野菜	平坦 	畑かん 区画整理	○ だいこん 等	○	○									神奈川県 三浦市	91	
47	畑地かんがいを契機とした「美らキャロット」ブランドの確立	野菜	平坦 	畑かん 区画整理	○ にんじん	○						○				沖縄県 糸満市	93	
48	先人達の偉業を後世へ悲願の愛知用水が潤すいちじく産地	果樹	緩 	ダム 用排水路 区画整理	○ いちじく							○		○		愛知県 常滑市等	95	
49	下水道施設への接続を通じた農業集落排水施設の合理化と流域環境の保全	水稻	平坦 	農業集落 排水施設					○	○						栃木県 佐野市	97	
50	畦畔除去による大区画化とICT導入を通じた農業経営の合理化の実現	水稻	平坦 	頭首工 用水路			○	○				○				岡山県 岡山市	99	
51	希少生物に配慮した基盤整備と環境保全型農業の実践	水稻	緩 	区画整理 用排水路 環境配慮 施設		○			○	○						三重県 桑名市	101	
52	ため池を活用した都市的地域の防災・減災力の強化	水稻	緩 	ため池 整備					○			○				大阪府 和泉市	103	

■ 位置図



1 高収益な枝豆の安定生産・加工・販売を通じた日本一の農業所得の実現

【北海道・中札内村】

なかさつない

1

- 農協の営農指導の下、地域の条件に合った枝豆を導入するとともに、基盤整備を通じて新たな輪作体系を確立。
- 冷凍枝豆の商品化など6次産業化に取り組みつつ、農協組合長のトップセールスにより販路拡大や輸出を推進。
- 「農家の良質な枝豆生産」と「農協の加工・販売」が一体となり、農家の所得向上や地域の雇用創出を実現。

地区の特徴

平地地域

野菜

キーワード

高収益作物

6次産業化

集積・集約化

法人化

取組前

リスクのある営農条件

- 小豆など豆類は、晩秋の収穫期に霜害を受けるおそれ
- ばれいしょの収穫期と小麦の播種期が重なる過密な農作業

天候次第で収穫が遅れがちなばれいしょは、早掘りすると収量が減



播種が遅れ、適期を逃すと翌春まで農地は遊休状態

未整備の生産基盤

- かんがい施設が未整備で天水に依存しており、恒常的に用水が不足
- 排水不良の農地が多く、たびたび湿害が発生

【小麦畑の湿害状況】



取組内容

新規作物の導入

- 地域の条件に合った高収益な省力作物として新たに枝豆を導入し、5年5輪作を開始



※ 3年目：てん菜 → 4年目：豆類、スイートコーン → 5年目：ばれいしょ

畑地かんがい、排水改良

- 国営かんがい排水事業 (H2 ~ 26)
- 畑地帯総合整備事業 (H9 ~ 27)



【大型ハーベスターを導入した畑】

農産物加工処理施設等の整備

- 【加工処理施設、冷凍保管施設の導入】
- 強い農業づくり交付金 (H17,20,23)

海外への販路の開拓

- 農林水産物等海外販路創出・拡大事業 (H21)

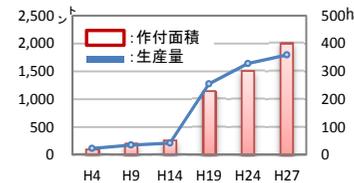
取組後

農家と農協が一体となった地域農業の発展

枝豆の生産 (農家)

- 【農家数】 84戸
- 【営農規模】 370ha
- 【生産額】 3億7,000万円 (H27年度)

枝豆生産量の推移



平均農業所得 (全体)



加工・販売 (農協)

- 【加工品販売額】 23億円 (H27年度)
- 【輸出】 10トン

【加工・販売】

- 民間企業と協力し、専用むきえだまめ機を開発。収穫後3時間以内に加熱・急速冷凍処理し保存し、冷凍枝豆を有利販売
- 地元メーカーとも連携し、規格外品等を活用した加工品を開発

【販路拡大】

- 全国36都道府県の学校給食のほか、大手外食産業や量販店と契約を結び販売
- 自ら売り込みを行い、米国、シガポール、UAE 等への輸出を促進

【雇用創出】

- 農産物加工施設の稼働に伴い、枝豆加工部門として100名が新たに雇用され、家族単位で村内への転入者が増加

◆ 誰がどのように・・・?

霜害対応等について農家が農協に相談したことがきっかけとなり、地域の条件に合った輪作体系の新たな品目として、気象特性を活かせる枝豆の導入が推奨されました。



【枝豆冷凍加工工場】

畜産農家の飼料用農地と畑作農家の農地を「交換耕作」し、互いに連作障害を回避しています

◆ JA組合長によるトップセールス

当初は販路が広がらず、12年連続赤字ということもありましたが、新たに就任したJA組合長が自ら商談会に参加したり、人脈も活かしてセールスを行ったりしたところ、大手外食店や量販店と次々に契約することができました。

生産者と家族自ら加工にも関わることによって、より安全・安心でおいしい枝豆の生産に向けた意識が向上しています

きっかけ

排水不良地のため、
現行の輪作体系では
思うように効率的な
営農を行うことが
困難

Step 1 (S59~)

高収益作物の導入

- 各農家が新たな作物の導入に試行する中、JAの指導もあり、より効率的な輪作体系の作物として枝豆の生産を開始
- 平成元年、農家20名が「枝豆を作る会」を設立

Step 2 (H2~27)

基盤整備の実施

- 用水を新たに確保するとともに、排水不良による湿害を解消するため、頭首工や用排水路等を整備
- 併せて区画整理や暗渠排水の整備を行い、5年5輪作体系が確立

Step 3 (H4~)

枝豆の加工・販売

- 周年販売により収入を安定確保するため、冷凍加工工場を新設し、冷凍枝豆の製造を開始
- JA女性部が地元企業と連携し、60品目を超える加工品を開発



枝豆加工品

海外や学校給食の取引拡大に向け、道内のJAで初めて自主衛生管理認証(HACCP)を取得し、安全性の確保に努めています



☆ 取引中止の失敗を糧に・・・

国産加工品の需要拡大に対応した結果、在庫が無くなって欠品を出してしまい、大手外食産業との取引が中止に追い込まれてしまいました。
このため、半年分の販売量を目安に在庫が確保できるよう増産体制を強化することとしました。

将来に向けて

- ☑ 枝豆やいんげん以外の冷凍野菜を求める顧客のニーズに対応するため、冷凍施設や大型ハーベスターを共用できるほうれんそう等の生産・加工を推進
- ☑ 農産物加工処理施設第2工場を建設するとともに、ICTを活用した効率的な営農による高品質な枝豆の生産を推進

今後の展望

Step 5 (H19~)

冷凍枝豆の輸出

- JA自ら海外へ売り込みを図り、米国向けに輸出を開始
- 和食ブームを追い風に安全な「EDAMAME」をアピールし、シンガポールやUAE等まで輸出を拡大

農林水産物等海外販路
創出・拡大事業を活用

Step 4 (H17~23)

加工処理施設等の整備

- 販路拡大に応じた増産体制を整えるため、冷凍加工工場を相次いで増設
- 保管コストを削減するため、冷凍枝豆を全量自前で保管できるよう冷凍倉庫を新設

強い農業づくり交付金を活用



地域資源保全

美しい農村

再エネ等

水利施設整備

防災・減災力